



高野のまちに光の輝き

イルミネーション点灯式・12/1、12/3

No.6

庄原市観光協会高野支部主催で、市役所高野支所周辺や道の駅たかのの施設、街路樹などがイルミネーションで飾りつけられ、12月1日には高野支所周辺を飾る「学園ロードイルミネーション」の点灯式が、同月3日には道の駅たかのの共催で、駅舎を飾るイルミネーションの点灯式が行われ、多数の市民や施設利用者が集まりました。寒空の中、点灯式が行われましたが、いづれも高野産野菜を使用した豚汁が振る舞われ、あつという間に行列ができました。参加者は「温かい豚汁ときれいなイルミネーションで心も体も温まる」と喜んでいました。高野の冬のまちなかをウインターイルミネーションが彩ります。



▲豚汁の前でできた行列

28年前をジオラマで再現

口和モーモー祭ジオラマ見学・12/2

No.5

口和自治振興センターに、28年前の第1回モーモー祭の様子を再現したジオラマが展示され、口北小学校の全児童が見学しました。

このジオラマは、元口和中学校校長の八谷勇男さんが、当時の写真を基に1年かけて作成したもので、当時の口和中学校の校舎や祭りのメインステージ、販売テント、牛との綱引きなどを細かく表現しています。児童はジオラマを囲み、じっくりと見ていました。八谷さんは「力を結集して祭りを盛り上げる住民の姿から感じた、過疎・高齢化する地域で生きるエネルギーに感動し、ジオラマを作成した。今の子どもたちにも、祭りや地元のことを忘れないでほしい」と話していました。



▲細かく再現されたジオラマに見入る児童

カーブの3投手と交流

カーブ選手とふれあいイベント・11/27

No.2

庄原市カーブ応援隊は11月27日、広島東洋カーブの九里亜蓮投手と横山弘樹投手、仲尾次オスカル投手を招き、庄原ショッピングセンタージョイフルと国営備北丘陵公園の2カ所で「カーブ選手とふれあいイベント」を開催しました。

イベントでは、選手のサイン入りグッズのほか、選手と記念撮影ができる抽選会やトークショーが行われ、集まったファンを楽しませました。

庄原市カーブ応援隊の山根英徳さんは「庄原市でカーブイベントを行えたことは、ファンにとって非常に嬉しいこと。今後も引き続き盛り上げていきたい」と話していました。



▲左からオスカル投手、九里投手、横山投手

たすきをつなぎ庄原を力走

第65回庄原市スター式駅伝大会・12/4

No.1

庄原に冬の訪れを告げる恒例の庄原市スター式駅伝大会が、12月4日上野総合公園陸上競技場を発着点に開催されました。

今回は、中学、高校、職域、一般など7部門に、87チーム522人が出場し、6区間、男子16.0キロ、女子15.6キロで健脚を競いました。

開会式では、東城中学校主将の矢田谷亜湖さんが、力強い選手宣誓を行いました。

レースは中盤から雨天となる中、1チームの大会新記録と4部門で6つの区間新記録が出る白熱のレースが展開され、ランナーは沿道からの熱い声援に背中を押されながら、力走しました。



▲第1走者が勢いよくスタート

地域と学校の連携で教育力向上

「教育プロジェクト事業」が文部科学大臣表彰受賞・12/8

No.8

総領自治振興区が取り組む「教育プロジェクト事業」が、他の模範になる、地域と学校の協働活動と認められ、文部科学大臣表彰を受賞しました。

同自治振興区では、平成26年度から、子どもの安全な居場所の確保や基礎学力の定着を図りつつ、保護者の就労しやすい環境を整えるため、小学生が対象の「放課後子ども教室」や、中学生の学力向上のための「放課後塾」などを実施しています。平成27年度には協議会を立ち上げ、地域と学校が連携して事業を展開しています。

山根京司区長は「今後も学校と連携し、子どもの安全な居場所づくりや支援活動を進めていきたい」と話していました。



▲表彰状を受け取った山根京司総領自治振興区長

そば打ちに挑戦

「十割手打ちそば」打ち方講座・11/12、11/26

No.7

比和自治振興区と比和そばの会が共催する「十割手打ちそば」打ち方講座が、比和自治振興センターで行われました。講座は2回開催され、延べ14人が参加しました。

参加者は、比和そばの会の指導を受けながら、比和町で10月に採れた「比和もえぎそば」を使い、水の量を測るところからほとんどの工程を自分でを行い、一人でそばが打てるようになることを目標に、一生懸命取り組んでいました。

そば打ちの経験がある参加者も「十割そばを打つ機会はめったになく、貴重な体験ができた」と言い、そばの仕上がりにも満足しているようでした。



▲十割そばの打ち方を熱心に学ぶ参加者

地域の活性化を目指して

第3回神楽まつり・12/4

No.4

田森自治振興センターで比婆荒神神楽「子ども神楽塾」が主催する「第3回神楽まつり」が開催され、200人を超える大勢の神楽ファンが集まりました。

比婆荒神神楽「子ども神楽塾」と「女組」の塾生たちが一年間の練習の成果を披露したほか、比婆荒神神楽社や田森保育所ちびっこ神楽、広島民俗舞踊教育研究会などが神楽を演じました。また今回は鳥取荒神神楽研究会の招待参加もあり、観客は目の前でされる華麗な舞や神事を堪能しました。同自治振興区の横山邦和会長は「子どもから大人まで、みんなが熱心に神楽にかかわってくれている。一生懸命に演じている姿が見られてとてもうれしい」と話していました。



▲比婆荒神神楽「子ども神楽塾」の舞「ござ舞」

交通安全を祈念して

庄原地区交通安全協会特別街頭指導・12/10

No.3

庄原地区交通安全協会西城分会・八鉾分会は、西城町平子の夢の橋周辺で、年末交通事故防止県民総ぐるみ運動の一環として、特別街頭指導を行いました。

市内で悲惨な交通事故が立て続けに発生したことから、市では11月28日から12月7日までの10日間、交通死亡事故多発警報を発令していました。

通りかかったドライバー一人一人に声をかけながら、反射たすきなどの啓発物品と赤・黄・青の信号を模した三色の安全餅を200セット配布。交通事故の防止を呼びかけました。

冬は積雪や凍結で事故が多くなります。安全運転を心がけ、事故を防ぎましょう。



▲通りかかるドライバーに事故防止を呼びかけた